

報道関係各位 企画展のご案内



高志の国
文学館
KOSHINOKUNI
Museum of Literature

撮影／宮澤正明

富山新聞創刊100年記念

世界から見た
日本文学展

ドナルド・キーン

The Toyama Shimbun 100th Anniversary Exhibition
Donald Keene:
Discovering Japanese Literature from a Global Perspective

2023年
9月24日(日)～11月27日(月)

開館時間／9:30～18:00(観覧受付は17:30まで)
※9月24日(日)は10:40開場

休館日／毎週火曜日、11月6日(月)、11月24日(金)

観覧料／一般500円(400円)、大学生250円(200円)、前売り・一般400円(裏面をご覧ください。)

※()内は20人以上の団体料金。企画展観覧券で常設展もご覧いただけます。
※次の方は、常設展・企画展ともに無料で観覧できます。小・中・高校生及びこれに準ずる方、各種障害者手帳をお持ちの方。

主催／高志の国文学館、富山新聞社 共催／チューリップテレビ 編集協力／キーン誠己
企画編集／県立神奈川近代文学館、公益財団法人神奈川文学振興会 特別協力／一般財団法人ドナルド・キーン記念財団
協力／コロンビア大学C.V.スター東亜図書館、東京都北区立中央図書館、公益財団法人プルボン吉田記念財団 ドナルド・キーン・センター柏崎
後援／国際交流基金、コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター、在大阪・神戸米国総領事館

展覧会チラシ

広報に関するお問い合わせ：高志の国文学館 事業課 谷口・福澤・大川原
〒930-0095 富山県富山市舟橋南町 2-22 TEL 076-431-5492 / FAX 076-431-5490

Summary

太平洋戦争目前の1940年(昭和15)に偶然手にしたアーサー・ウェーリ訳「源氏物語」との運命的な出会いに導かれて、ジャパノロジストの道へと進み、日本文化の魅力を世界へ、そして日本の人々へ伝えたドナルド・キーン(1922~2019)。アメリカと日本を往来しながら、古代から現代までの文学、歴史、芸能と幅広いジャンルの研究や翻訳に取り組み、後続く日本文化研究者の教育にも力を注ぎます。

本展では、ドナルド・キーン記念財団の特別協力をえて、ドナルド・キーンの著作を通し、世界から見た日本文学がもつ魅力、奥深さ、美しさを見つめなおします。平安時代から江戸時代の日記文学を論じた「百代の過客」や、ライフワークとなった「日本文学の歴史」などの著作を紹介。キーンが愛した能や文楽、歌舞伎などの伝統演劇、谷崎潤一郎や川端康成ら作家との交遊も示しながら、日本人の精神を掘り下げます。

Profile

ドナルド・キーン Donald Lawrence Keene

日本研究者、文芸評論家。1922年(大正11)ニューヨーク生まれ。40年(昭和15)、アーサー・ウェーリ訳『源氏物語』に感動し、日本文学や日本文化の研究を志す。コロンビア大学へ飛び級で入学。在学中に太平洋戦争が勃発する。米海軍の日本語学校で学んだのち、情報将校として従軍し、日本語の通訳兼翻訳者を務める。戦後は復員して、コロンビア大学大学院に復帰。ハーバード大学大学院、英国ケンブリッジ大学を経て、53年(昭和28)に京都大学大学院に留学する。帰国後、コロンビア大学で日本文学を教えながら日本に足しげく通い、谷崎潤一郎や川端康成、三島由紀夫、司馬遼太郎など名だたる作家と交流を深めるとともに、古典から現代文学にいたるまで広く研究し、翻訳・紹介を通じて海外への日本文学の普及に貢献。戦後のアメリカにおける日本文学理解を飛躍的に高めた。62年(昭和37)に菊池寛賞受賞、また85年(昭和60)に、日本人の日記を研究した『百代の過客』で読売文学賞、日本文学大賞を受賞する。86年(昭和61)、コロンビア大学にドナルド・キーン日本文化センターを設立。99年(平成11)、日本文学研究の学生のための奨学金機構「ドナルド・キーン財団」を創設する。2002年(平成14)には文化功労者に選定。08年(平成20)には文化勲章を受章した。11年(平成23)の東日本大震災後、日本永住・日本国籍取得の決意を表明。日本国籍取得後の正式名はキーン ドナルド。雅号「鬼怒鳴門」を使うこともある。13年(平成25)、ドナルド・キーン・センター柏崎が開館。「徒然草」や「奥の細道」などの古典から、三島由紀夫や安部公房などの著作の英訳書も多数著す。19年(平成31)2月、永眠、享年96歳。20年(令和2)には『ドナルド・キーン著作集』(全15巻)が完結した。

Outline

展覧会名	富山新聞創刊 100 年記念 ドナルド・キーン—世界から見た日本文学展 The Toyama Shimbun 100th Anniversary Exhibition Donald Keene: Discovering Japanese Literature from a Global Perspective
会 期	2023 年 9 月 24 日 (日) ~ 11 月 27 日 (月)
会 場	高志の国文学館 〒930-0095 富山県富山市舟橋南町 2-22
開館時間	9:30~18:00 (観覧受付は 17:30 まで) ※9 月 24 日 (日) は 10:40 開場
休 館 日	毎週火曜日、11 月 6 日 (月)、11 月 24 日 (金)
観 覧 料	一般 500 円 (400 円)、大学生 250 円 (200 円)、前売り・一般 400 円 ※ () 内は 20 人以上の団体料金。企画展観覧券で常設展もご覧いただけます ※小・中・高校生及びこれに準ずる方、各種障害者手帳をお持ちの方は無料
主 催	高志の国文学館、富山新聞社
共 催	チューリップテレビ
編集協力	キーン誠己
企画編集	県立神奈川近代文学館、公益財団法人神奈川文学振興会
特別協力	一般財団法人ドナルド・キーン記念財団
協 力	コロンビア大学 C.V. スター東亜図書館、東京都北区立中央図書館、 公益財団法人ブルボン吉田記念財団 ドナルド・キーン・センター柏崎
後 援	国際交流基金、コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター、 在大阪・神戸米国総領事館
展覧会担当	高志の国文学館 事業課 係長 大川原 竜一 (おおかわら りゅういち)

Theme

第 1 章 ドナルド・キーンのルーツ

本展覧会は、特別展「生誕 100 年 ドナルド・キーン展—日本文化へのひとすじの道」(神奈川近代文学館、2022 年 5 月 28 日~7 月 24 日)を再構成したものです。第 1 章では、高校卒業からコロンビア大学入学、そして太平洋戦争下をへて日本文化への関心を深めていったキーンの軌跡を、貴重な資料をとおして紹介します。

第 2 章 碧い眼の日本学者—文学者との交遊

日本学者としての道を歩みだしたキーン。日本文学の翻訳に邁進し、その海外への発信につとめたキーンの功績を、谷崎潤一郎、川端康成、三島由紀夫、安部公房などの文学者との交遊や、能、文楽、歌舞伎など伝統演劇へのまなざしをまじえて展覧します。

第 3 章 時を旅する—世界から見た日本文学

第 3 章では、キーンのライフワークとなった、個人単独による初の日本文学史通史の「日本文学史」「日本文学の歴史」や、平安時代から明治時代までの日記をよみとき、日本人の精神性の変遷を大局的な視点で描いた「百代の過客」などの業績を展示します。

第 4 章 日本人の心性を探る

「日本文学の歴史」完成ののち、文学史に匹敵するようなテーマにとりくんだ、伝記作品『明治天皇』『足利義政』『石川啄木』を紹介します。

第 5 章 エピローグ

「創作の現場」として書斎を再現するとともに、「素顔のドナルド・キーン」と題した多くの写真を展示します。

Topics

- 1 ドナルド・キーンの著述を通して、日本文学を世界的な視野で俯瞰し位置づける企画展を開催します。
- 2 翻訳や執筆活動を通じて古典から現代までの日本文学がもつ魅力や奥深さ、また、能や文楽、歌舞伎などの日本の文化の美しさを世界に広めた、ドナルド・キーンの事績をひもときます。
- 3 ドナルド・キーンの研究の軌跡のみならず、谷崎潤一郎や川端康成、三島由紀夫、安部公房ら、同時代の著名な文学者たちとの交遊を紹介します。
- 4 日本および日本の文学や文化についてのドナルド・キーンの評言や言葉をパネルで掲げ、彼の思いやメッセージが来館者に伝わる展示を目指します。
- 5 伝記作品を通じて、文学の世界にとどまらず、日本および日本人の精神、日本文化の魅力についても深く掘りさげます。

Events

(1) オープニング記念講演「父ドナルド・キーンの思い出」

[講師] キーン誠己 氏 (ドナルド・キーン子息、一般財団法人ドナルド・キーン
記念財団代表理事、浄瑠璃三味線奏者)

[日時] 9月24日(日) 14:00~15:30

[会場] 当館 研修室 101

◎申込必要 ◎参加無料 ◎定員 100名

(2) 講演「ドナルド・キーン氏と現代日本の作家たち」

[講師] 尾崎真理子 氏 (文芸評論家)

[日時] 10月7日(土) 14:00~15:30

[会場] 当館 研修室 101

◎申込必要 ◎参加無料 ◎定員 100名

(3) トークイベント「国際交流員が語る「日本人と日本文化」」

[出演] 富山県国際交流員 (CIR)

[日時] 11月12日(日) 14:00~15:30

[会場] 当館 研修室 101

◎申込必要 ◎参加無料 ◎定員 100名

(4) 担当学芸員によるギャラリートーク (展示解説)

[日時] 10月8日(日)、10月22日(日)、11月19日(日)
各回 14:00~ (30分程度)

[会場] 当館 企画展示室

◎申込不要 ◎要観覧券

■申込方法

電話・FAXにてイベント名(複数可)と氏名、電話番号を高志の国文学館までお知らせください。

※定員に達し次第、募集を終了します。

※FAXでのお申込みで、定員に達している場合のみ当館からご連絡いたします。

Highlight

■主な出品作品

遺品・愛用品

- ・「高校時代の成績表」
- ・「青島時代の名刺」
- ・古川通泰「狐の嫁入り」（油彩画、自宅の玄関に飾られていたお気に入りの絵）

原稿・草稿

- ・「Flaubert's Symbolism と評価表」（大学2年生時のレポート、1939年）
- ・「THE GENTLEMEN CANNIBALS」（[人喰い紳士]原稿、1946年）
- ・「下田の一夜」（「豊穡の海」最終巻「天人五衰」の原稿の束を三島から手渡されたエピソードを記す、1973年）
- ・「安部公房の儀式嫌い」（日本国内の文壇とは距離を置いている安部の孤高の姿をつづったエッセイ、1992年）
- ・「The Incident at Otsu」（「明治天皇」43回の原稿、1998年）
- ・「I. TAKUBOKU THE REBEL（反逆者啄木）」（『石川啄木』第1章の原稿、2014年）
※啄木の「啄」は、点がつくキバつき。

自筆資料・書画

- ・「菊池寛「勝敗」の感想文」（キーンがはじめて書いた日本語の文章、1944年）
- ・「鉢木会 八」連歌帖（県立神奈川近代文学館所蔵・吉田健一文庫、酒食でもてなし歓談する「鉢木会」にゲストとしてまねかれた際に、吉田健一や三島由紀夫、大岡昇平らとともに認めた連歌帖、前期：9月24日（日）～10月23日（月）のみ）
- ・「安部公房から贈られたソ連人の作品」（最晩年まで居間のテーブル下に入れて折々取りだして眺めていたもの）

書簡

- ・「谷崎潤一郎宛 ドナルド・キーン書簡」（キーン氏送別狂言会の告知、1956年）
- ・「ドナルド・キーン宛 三島由紀夫書簡」（小説「鏡子の家」を執筆中に送られた書簡、1958年）

色紙

- ・「月日は百代の過客」（1991年）

映像

- ・国際交流基金「日本文学を世界へ～ドナルド・キーンの生涯～」
- ・富山県民生涯学習カレッジ「富山県民生涯学習夏季講座 世界のなかの日本文化」
- ・ドナルド・キーン・センター柏崎「ドナルド・キーン、作家を語る」

など 資料点数 244点（パネル含む）

Images



1 展覧会チラシ



2 ドナルド・キーン
肖像



3 ケンブリッジ大学で
26歳



4 コロンビア大学の
研究室で



5 石川啄木の墓参

※啄木の「啄」は、点がつくキバつき。

「富山新聞創刊 100 年記念
ドナルド・キーン 世界から見た日本文学展」
広報用画像貸出申請書

高志の国文学館事業課 広報担当 行
FAX 076-431-5490
E-mail akoshinokuni@pref.toyama.lg.jp

展覧会広報用の画像を貸出しております。ご希望の際は、下記の貸出条件をご確認のうえ、本書に必要事項をご記入いただき、FAX または E-mail にてお申込ください。E-mail の添付にて JPEG データで画像をお送りいたします。

【広報用画像貸出条件】

- ◎画像は展覧会紹介の目的のみにてご使用ください。
- ◎画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- ◎画像データは、ご使用後かならず破棄してください。
- ◎画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◎インターネット上へ掲載する際には、画像をコピーできないよう処置してください。

御社名 : _____

御担当者名 : _____

E-mail アドレス : _____

電話 : _____ FAX : _____

掲載誌名・番組名・Web サイト名 : _____

発行・放映・掲載予定日 : _____

申込画像（ご希望の画像をチェックしてください。）

- 画像 1 展覧会チラシ
- 画像 2 ドナルド・キーン肖像
- 画像 3 ケンブリッジ大学で 26 歳
- 画像 4 コロンビア大学の研究室で
- 画像 5 石川啄木の墓参 ※啄木の「啄」は、点がつくキバつき。